

子どもが育つ庭、幼稚園（Kindergarten）

記事のURL

<https://www.gklibrarykor.com/ja/article/9642/>

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

子どもが初めて家を離れ、一日のうち数時間を過ごす場所は、たいてい幼稚園です。そこで子どもたちは歌を歌い、積み木を積み、植木鉢に水をやりながら、友だちとけんかして仲直りする方法を身につけます。文字や計算より遊びが先にあるこの風景は、今ではあまりに見慣れていて、もともとあったもののように感じられます。しかし、幼い子どものための学校が別に必要だという考えは、生まれてからまだ200年もたっていません。それまで幼い時期は、学校に入る前にただ過ぎていく時間と考えられがちでした。遊びそのものを学びと見なし、子どもを庭の植物のように育てる場所を初めてつくった人がいて、彼がつけた名前こそが「幼稚園（Kindergarten）」です。本稿では、ドイツの教育者フレーベルが最初の幼稚園を開いた話から、彼がつくった遊具「恩物」、禁止令を乗り越えて世界に広まった過程、そして韓国の幼稚園の始まりと今日の姿まで、順に見ていきます。遊びで学ぶ子どもたちの庭 フレーベル教育の中心となる考えをまとめた説明図です。四つの経験は編集上の要約で、教師の観察と導きがともにあります。恩物は代表的な例です。根拠：フレーベル博物館・Froebel Trustの教育原則・恩物の資料。フレーベルと最初の幼稚園 幼稚園という言葉と制度をつくったのは、ドイツの教育者フリードリヒ・フレーベル（Friedrich Fröbel）